

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.123 2007.12.3

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町 10 番地 杉山ビル 4F 岐阜女子大学 文化情報研究センター内
 日本教育情報学会 運営本部事務局 Tel:058-267-5233 Fax:058-267-5238
 E-mail:nkjg@gijodai.ac.jp http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei

日本教育情報学会第 24 回年会開催【予定】

日本教育情報学会第 24 回年会は、8 月 19 日(火)～20 日(水)大妻女子大学 多摩キャンパスで開催を予定しています。〔詳細は次号掲載予定です〕

***** 日本教育情報学会第 23 回年会開催報告 *****

水戸の地までおいでいただき、ありがとうございました！

それにしても、暑かった！20 日が最高気温 32.6 度，21 日が 34.6 度。水戸は北にあるから少しは涼しいだろうと期待して来られた方々をガッカリさせたようです。二日間とも、建物を出て 100m 足らずの道を通って別な建物に移動するだけで汗が噴き出してきました。

でも、そんな厳しい暑さに負けないくらい熱く、第 23 回年会は挙行されました。これもひとえに参加して盛り上げてくださった発表者，参加者の皆様の熱意の賜物です。ほんとうに、ありがとうございました。

事前登録者 144 名，当日受付者 28 名，茨城県教育関係者 25 名，その他 18 名，合計 215 名の受付がありました。今年の年会は，最初の基調講演とパネル討論（午後 3 時半まで）は登録しなくても自由に聴くことができるようにしました。それもあってか，2 日間で延べ 400 名以上が参加しました。受付する時間がばらけて，受付のためにお待たせしてしまうようなこともほとんどありませんでした。

年会実行委員会としては，初日の朝一番の基調講演に聴衆が少ないのではないかと心配でした。しかし，それは杞憂に過ぎませんでした。10:30 のスタート時点で約 90 名が入場しており，その後に増えていきました。「教育改革と教育情報」という演題の布村審議官のお話は，最初に情報教育と教育情報の文部科学省としての歴史的流れの説明があり，その後は配布された資料にしたがって個々に説明がありました。資料も多く，資料の意味やその背景など参考になる情報提供が多数あり，私たちも参考になる情報がありました。



第 23 回年会実行委員会
委員長 堀口秀嗣



基調講演の様子



パネル討論の様子

午後のパネル討論には110名を超える人たちが会場にいました。NHK教育番組ディレクターの宇治橋祐之氏、福岡の海の中道海洋生態科学館の高田浩二氏がデジタルアーカイブ作成・提供側としてその内容と利用者に望むことを話されました。また大学からは常磐大学の水嶋英治先生がデジタルアーキビスト育成の考え方、重点と、具体的な学生の活動などを紹介されました。3人のプレゼンが終了した時点で有蘭格先生がコメンテータとしてご意見や留意点を述べられました。一つ一つの話が終わるとすぐに、コーディネータの堀田龍也先生がその場で聴きながら作成したスライドを示して、その要約と意味や工夫を簡単に解説し、突っ込みを入れていました。その手際の良さとかわりやすさはコーディネータとして最高でした。

初日最後のセッションと二日目は5会場にわかれて、105件の課題研究と一般研究の発表がありました。円形に配置された発表会場を移動するのは最短距離でできたと思います。発表している最中はほとんど出てくる人がいなくて、熱心に聴かれている様子が伝わってきました。センターホールに置いて自由に飲めるようにした大きいペットボトルのお茶がどんどん無くなっていくのを見ながら、気温の暑さばかりでない発表者と参加者の熱気を感じました。センターホールでは3社の企業展示もあり、機器を操作したり、書籍を買っていく人たちも多かったです。

今回はすべて電子メールとWebでやりとりをさせていただきました。ただ、変更が相次ぎ、その結果の公表が遅れたために、発表者や参加者に多大なご迷惑をおかけしてしまいました。誠に申し訳ありませんでした。

途中状態でも変更点をどんどんお知らせすべきだった、Webページをもっと早く立ち上げるべきだった、発表者用メーリングリストも作成して活用すべきだった・・・そんな反省点がたくさん出てきました。でも、反省点に対応することを前提とするならば、今後の年会運営はコストの点でも、時間的な点でも、学会名や内容からしても、電子的な方法を大いに取り入れていくべきだと痛感しました。

参加された皆様のご協力、ほんとうに、ほんとうに、ありがとうございました。

******* 第23回定時総会報告 *******

8月20日(土)13:00から常磐大学H棟講堂において、日本教育情報学会第23回定時総会が開催されました。

正会員431名のうち117名の出席があり(委任状による出席者49名を含む)、定款27条により総会は成立。後藤忠彦会長を議長として総会を開会しました。

提案された3議案
第1号議案 2006年度事業報告及び収支決算の件
第2号議案 2007年度事業計画及び予算案の件
第3号議案 役員選任の件

は、審議の結果、原案通り承認されました。(議案内容はNewsletter No.122をご参照ください)

総会終了後、日本教育情報学会学会賞の表彰式を行いました。

******* 2007年度日本教育情報学会 学会賞受賞者 *******

奨励賞 (1件)

前年度の学会研究発表大会において発表された優れた研究の中から選考する

- ・坂井岳志(八幡小学校) 「携帯電話で動く教材の作成・Flash Liteを使って」
(2006年第22回年会発表)

論文賞 (該当者なし)

学会誌『教育情報研究』に掲載された論文のうちで特に優れたものに対して授与する。

特別賞 (該当者なし)

*** 日本教育情報学会研究会の新しい展開への期待 ***

会長 後藤 忠彦

第 23 回日本教育情報学会が常磐大学で開催され、基調講演では、布村幸彦文部科学省大臣官房審議官から「教育改革のゆくえ」として、教育基本法を始め、各法律等の改正と教育の現状の課題について、また、パネル討論「今、学校に必要な教育情報とは」では、新しい教育情報の推進の課題が示されました。また、多くの課題研究、一般研究の発表がありました。

これらの基調講演、パネル討論、研究発表から、まさに今、教育が大きく変わろうとしていると感じました。あわせて本学会においても、これに対処すべき重要な時期だと思いました。

一方、教育情報に関する社会的課題も、本学会の設立当時と比較すると大きく変化・発展がみられます。

設立当時、プライバシーに関する OECD の基本原則や、総務省（加藤一郎座長）によるプライバシーの基本原則が報告され、教育情報でも関連研究がなされました。それが、最近の個人情報保護法へと発展し、教育情報の公開と保護の両面で学校を含め、多様な課題をもっています。

著作権関係でも、昭和 60 年頃は、社会の情報化に対応し、データベースをはじめ、関係著作権法等の整備がなされました。最近も、教育と関係のある著作権法等の整備が始まり、教育界としても、学習者のために、より一層の積極的な対応が必要となってきました。

設立前には、文部省による教育資料等の収集・蓄積・利用が学制百年記念事業として、教育資料館の検討が始まり、その後、国研に教育情報センターが設置され、国・大学・県等での情報収集・活用が始まりました。これに対し、現在、教育資料のデジタル・アーカイブ化とその利用が進みだし、より良質な資料の流通と活用を推進するためのメタ情報等、共通化等の研究も必要となってきました。

このように、本学会を取り巻く教育情報の課題は、二十数年前と同様に多様な新しい課題があります。これらの社会の変化とともに、教育情報がかかえている多様な問題を日本教育情報学会として組織的に研究を進め、教育界に対し課題や指針を提示すべき時期がまさしく到来していると思います。

たとえば、著作権、プライバシー、所有権等の問題を、広く伝えることも重要です。しかし、逆に、教育界の多くの方々の協力を得て教育活動として著作権等の望ましい方向性を調査し、それらを教育界から社会へ要望、さらには、法制度上の変更の要求等、教育関係者が日常的に著作権等で困っている事項を指摘改善し、よりよい教育環境の整備を進める必要があります。

また、教育に関する情報をお互いに利用できるようにするには、メタ情報の整備が重要です。LOM（IEEE）が一部で利用されていますが、各分野で情報カテゴリーの共通化とその利用が進まなければ、教育情報の学校間での相互の有効活用が進みだしません。教育の各分野の情報カテゴリーの指針とその事例等を出すような共同研究が必要となります。教師教育でも、新しく教員免許の更新性が始まろうとしています。

ぜひ、このような時代に日本教育情報学会として、教育情報の利用方法に関する分野での共同研究、望ましいカリキュラムの編成の調査など、受講する側からの要求も検討すべきかと思います。

とくに、本学会は、教育の各分野の研究者などで構成されていますので、各分野の方々が集まり、本学会でなければできない研究プロジェクトを構成し、研究を進め、社会に発言ができる学会にしてくださいよう、お願いいたします。

学会誌「教育情報研究」の投稿を募集しています。

学会誌への投稿については、【投稿要領】を確認のうえ、【投稿手続き及び執筆手順】に従い、【投稿票】を添えて、運営事務局に投稿ください！

投稿票はホームページ <http://wwsoc.nii.ac.jp/jsei/> からダウンロードできます。

***** 役員・顧問・評議員名簿 *****

定款に基づき、第23回総会において選任された役員、会長から委託される顧問、第24回理事会において推薦され会長から委託される評議員は次の方々です。任期はいずれも、2007年11月15日から2009年11月14日になります。(新任 / 機関の長として就任 五十音順 / 敬称略)

【役員】

会長(1名)

後藤 忠彦(岐阜女子大学)

副会長(2名)

林 徳治(山口大学)

若山皖一郎(十文字学園女子大学)

理事(19名)

荒井 元明(聖心女子学院)

井上 透(国立科学博物館)

沖 裕貴(立命館大学)

奥田 眞丈(芦屋学園)

鎌谷 秀男(修成学園)

神田 道子(国立女性教育会館)

木下 昭一(聖徳大学)

近藤 信司(国立教育政策研究所)

坂井 知志(常磐大学)

坂元 昂(日本教育工学振興会)

下田 昌嗣(松下教育研究財団)

白川 雄三(大阪学院大学)

菱村 幸彦(学習リソース情報研究センター)

堀口 秀嗣(常磐大学)

本郷 健(大妻女子大学)

松下 俱子(国立青少年教育振興機構)

宮田 仁(滋賀大学)

三輪眞木子(幼児教育開発センター)

村瀬康一郎(岐阜大学)

監事(2名)

秋山 昭八(秋山法律事務所)

有園 格(星槎大学)

【顧問】

芦葉 浪久(東北師範大学)

上野 一郎(産業能率大学)

大沼 淳(文化学園)

熊谷 信昭(兵庫県立大学)

古賀 節子

鈴木 勲(日本弘道会)

辰野 千壽(応用教育研究所)

(以上7名)

【評議員】

安達 一寿(十文字学園女子大学)

井口 磯夫(十文字学園女子大学)

井上 史子(外国立シニガハ大学)

太田 容次(国立特別支援教育総合研究所)

大西 荘一(岡山理科大学)

岡山 保美(河合塾)

奥野 雅和(京都文教中学高等学校)

梶山 雅史(岐阜女子大学)

加藤 直樹(岐阜大学)

北島 義俊(大日本印刷株式会社)

久世 均(岐阜女子大学)

久保田了司(高度映像情報センター)

黒川 マキ(大阪学院大学)

斎藤 哲瑯(川村学園女子大学)

清水 厚実(図書教材研究センター)

園屋 高志(鹿児島大学)

谷口 知司(岐阜女子大学)

谷口由美子(京都市立芸術大学)

丁子 惇(東京書籍株式会社)

鳥居 雄司(都立科学技術高等学校)

長尾 尚(大阪信愛女学院短期大学)

成瀬 喜則(富山商船高等専門学校)

南部 昌敏(上越教育大学)

西村 慶一(大阪学院大学)

橋本ヒロ子(十文字学園女子大学)

服部 晃(岐阜女子大学)

福田 隆真(山口大学)

藤本 光司(宝塚市立長尾中学校)

古田 善伯(岐阜大学)

堀田 龍也(幼児教育開発センター)

前川 道博(長野大学)

前田 志郎(高知市立昭和小学校)

松川 禮子(岐阜県教育委員会)

水嶋 英治(常磐大学)

宮地 功(岡山理科大学)

山本 利一(埼玉大学)

横田 学(京都市立芸術大学)

(以上37名)